

眼形成・眼窩・涙道外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	眼窩内下壁骨折における眼窩壁再建用吸収性シートを 2 枚挿入する術式の術後成績に関する調査
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	眼形成・眼窩・涙道外科 (職名) 教授(特任)(氏名) 高橋靖弘
研究の対象となる方	2021年4月1日から2023年10月31日までに当科で骨折の整復を行った眼窩内下壁骨折の患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2024年9月30日
研究目的及び利用方法	<p>[研究目的]</p> <p>眼窩内下壁骨折は眼窩の内側壁と下壁が同時に骨折するため、その整復は眼窩1壁骨折に対する整復より困難です。一般的には眼窩内下壁へ同時にアプローチできるように皮膚もしくは結膜を外眥部(目尻)から内眥部(目頭)上方まで切開し、1枚の眼窩壁整復用のシートを挿入して骨折部を整復します。しかしこの術式では、術創が狭い場合に大きな1枚シートの挿入が困難です。また、シート挿入のために眼窩内下壁移行部に位置する下斜筋の付着を一時的に外さなければならず、これによって下斜筋の運動障害を来す恐れがあります。当科では以前より、術創を下眼瞼結膜と涙丘の2か所に作成し、下斜筋を外さずに2枚のシートが眼窩内下壁移行部で重なるように挿入しており、これによって狭い術創から下斜筋を付着部から外さなくともシートが挿入できます。本研究では、当科で行っている本術式の術後成績を調べることを目的としています。</p> <p>[利用方法]</p> <p>診療情報の収集目的で、カルテを利用します。術前後の眼球運動(両眼単一視野)を比較します。またCT画像から、眼窩の容積を受傷側と非受傷側で比較します。</p> <p>[外部への試料・情報の提供]</p> <p>非該当</p> <p>[外部への提供開始日]</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び	<p>試料：非該当</p> <p>情報：診療録(カルテ)およびCT画像から、年齢、性別、左右、眼窩下神経麻</p>

項目	痺の有無、術前後両眼単一視野、および眼窩容積に関する情報を収集
提供する試料・情報を用いる学外の研究責任者	非該当
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2024年3月31日までに電話により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 眼形成・眼窩・涙道外科 担当者：(職名) 教授 (特任) (氏名) 高橋靖弘 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 12314)